



田んぼわらしの **ささやき** **田んぼ 10 年だより**

第 15 号 2019 年 3 月 27 日発行

田んぼの生物多様性向上 10 年 (略称: 田んぼ 10 年) ニュースレター
 発行: NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本 (ラムネット J) 水田部会
 所在地: 〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3F
 TEL/FAX: 03-3834-6566 電子メール: info@ramnet-j.org
 ホームページ: <http://www.ramnet-j.org>

目次

第 4 回田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト全国集会報告	1~2
地域からの報告① かわごえ里山イニシアチブ	2~3
地域からの報告② ウィリアムス栄	3
水田部会からのお知らせ (2019 年度の活動計画) 他	4

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊



「第 4 回田んぼ 10 年プロジェクト全国集会報告」

NPO 法人河北潟湖沼研究所 川原奈苗

田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト全国集会が東京で実施されました。これまでの活動を振り返るとともに、田んぼの生物多様性向上と消費行動について各地から活動報告がおこなわれ、2020 年から次の 10 年の活動計画にむけて活発な議論が交わされました。

開催日: 2019 年 2 月 24 日 (日) 10:30~17:45

主催: NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本

場所: TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター

第 1 部 2018 年度の活動を振り返って

ラムサール・ネットワーク日本共同代表での呉地正行氏より、「田んぼ 10 年プロジェクト 2018 年活動報告」と題して、プロジェクトの背景とこれまでの活動について報告されました。また、2018 年のニュースとして上海海洋大学で開催された国際ワークショップ「魚米農業の社会的効果」に参加したこと、2020 年までにこれまでの田んぼ 10 年プロジェクトの活動の成果と課題を整理し、2020 年以降も活動を継続させることを目指して、新・田んぼ 10 年プロジェクトの計画をつくる話し合いをしていること、新プロジェクトには SDGs やカンクン宣言も含めた検討をおこないたいとの考えが伝えられました。

つぎに同じく共同代表の安藤よしの氏より、2018 年に開催された地域交流会と意見交換会について報告されました。第 9 回目の地域交流会は 6 月に愛知県の豊田市自然観察の森で開催され、愛知県ではサンバのすめる森と水田づくりの取り組みをはじめ、生物多様性向上につながる様々な取り組みがおこなわれていることが紹介されました。また、8 月に長野県佐久市で開催された地域情報交換会では、JA 長野厚生連佐

久総合病院と佐久医療センターなど、佐久地域の活動の現場で交流した内容が報告されました。

有機農業をひろめる活動をおこなっている NPO 法人民間稲作研究所理事長の稲葉光國氏より、「ブータン王国における循環型有機農業支援プロジェクト」と題して、除草剤の使用量が多かったブータン王国において、水田にはびこっていたヒルムシロとホタルイの防除法を見だし、雑草の防除に成功したこと、山からの用水は水温が 8 度くらいと冷たいことから、水温を上げるためにビオトープを各圃場に作ったこと、田植えをした後は田んぼに入らないように指導したこと、田んぼの生き物たちが復活したこと、有機農業の可能性が国全体に拡がりつつあること、味噌などの加工品も出来ていること等が紹介されました。

第 2 部 各地の活動報告

登録団体の報告として、株式会社アレフの荒木洋美氏より、びっくりドンキーで使用される契約栽培米は、除草剤一回のみの「省農薬米」として、全国で生産者 619 名により約 90,000 俵が生産・流通されていることが報告されました。独自に実施した消費者アンケートでは、ゴミの関心を持つ人が最も多かったものの、生物多様性や農業への関心も高いことが紹介されました。今後もブランド価値を上げていきたいとの抱負が語られました。つづいて、かわごえ里山イニシアチブの増田純一氏より、1.6 町歩の無農薬栽培に取り組んでおり、ストロベリーキャンドルを蒔いていること、田んぼ IoT をつくったこと、マコモの栽培をしていること、東洋大学と共同研究していること、認定連携事業が弾みになったこと、井戸掘りプロジェクトで、地域の人たちと緊密な関係になったことなどが報告されました。



ラムネット J 柏木氏



同 呉地氏



同 安藤氏



民間稲作研究所 稲葉氏



(株)アレフ 荒木氏



かわごえ里山イニシアチブ 増田氏



琵琶湖博物館
大塚氏



河北潟湖沼研究所
高橋氏



いすみ市
鮫田氏



JA 全農
山崎氏



いばらきコープ
鈴木氏

田んぼの生物多様性向上と消費行動について全国各地から5題が報告されました。最初に、滋賀県琵琶湖博物館の大塚泰介氏より、「みんなで研究する田んぼの生きもの」と題して、琵琶湖水田生物研究会のことや、田んぼの生きもの全種リストの更新などの話題が提供されました。つぎに NPO 法人河北潟湖沼研究所の高橋久氏より、「生きもの元気米から見てきた生物多様性と消費者の関係について」と題して、生物多様性を念願においた「生きもの元気米」の経緯と、生物多様性をすすめるための認証が消費者のところで安全安心につながったことなど、生産者や消費者の反応について報告されました。つづいて千葉県いすみ市の鮫田晋氏より「有機米学校給食と地域稲作」について、学校給食の有機米化とその影響、毎日有機米を食べている子どもたちから持続可能性についての授業の理解も深まっていることが報告されました。山崎敏彦氏からは、「JA 全農の「田んぼの生きもの調査」では、食の問題の分析とともに、農業に新しい視点ができれば可能性があること、生きものが復活してもそこに人々の眼差しが向けられなければ生きものがいないのと同じではないかの考えにたち、田んぼの生きもの調査を推奨していることが報告されました。最後に鈴木礼子

氏より、「お米の生産者と組合員をつなぐ活動」と題して、「産直いばらきコシヒカリ」の取り組みで 1993 年より毎年 100 人を超える人たちが交流する田んぼ学校を開催してきたことが報告されました。

パネルディスカッションでは冒頭にオリザネットの斉藤光明氏より、水田決議の実施状況について話題提供がおこなわれ、様々な課題が抽出された後、約 1 時間に渡って議論が行われました。水田の生物多様性を向上させるために目指すべきゴールを設定すべき、子どもの教育が重要であること、学校給食を中心に有機米をひろめ日本の自給率向上を図るべき、田んぼは地域の環境をつくるものであり、市場に影響されるべきではないという論者もいること、農業による経済負荷が実際には存在しており、どのようにしたら経済評価できるか、学校教育により子どもが大人たちへ影響を与えていること、物語を売る、など様々な意見が出されました。また、農政の問題についても取り上げられました。持続可能性、生物多様性、子どもたちの健全な育成といった、2020 年からつぎの 10 年にむけてしっかりとした新たな計画が立てられることを願って閉会しました。



パネルディスカッションの様子 モデレーター ラムネット」浅野氏



集合写真



「彩の国埼玉環境大賞で「大賞」を受賞しました」

NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ 増田純一

平成 31 年 2 月 15 日に「彩の国埼玉環境大賞」の表彰式が埼玉県知事公館で行われ、かわごえ里山イニシアチブは「大賞」を受賞しました。この賞は、環境保全活動や環境学習などに取り組む県内の個人や団体、企業を表彰するもので、埼玉県とテレビ埼玉の主催で毎年行っており、今年度は 47 組の応募があったということです。

式でははじめに、上田知事が朝霞市の黒目川で捕れた鮎を食べた体験を通じて埼玉県の環境が年々良くなってきていることを述べ、「これは生態系を守る皆さんの日ごろの地道な活動が

一つ一つ成果を出していると感じる」と受賞者に感謝を伝えました。

表彰状授与や記念撮影に引き続き、当会の柏井喜代恵理事が受賞者を代表して 3 分間スピーチを行いました。「私たちの活動は、生物多様性向上を目指し 2014 年に立ち上げました。私は看護師をしており「地球丸ごと健康に！」をモットーに活動しています。主な活動は、田んぼをフィールドにして化学肥料や農薬を使用しないお米とマコモタケ作りや稲作文化の伝承です。赤トンボやコウノトリ、川越の鳥である雁が舞い戻るよ

うな環境を目指して「生きもの育む田んぼプロジェクト」として活動しており、国連のSDG'sの一環として地域での実践を担っております。今後は、障害のある方、女性の視点やIoTを取り入れながら農的暮らしや文化を川越の蔵の街と連携させた体験型の観光スポットを創りたいといういろいろな夢や構想が広がっています。この受賞を機に、更に地域のお役に立つ里山作り、街づくり、健康を目指したい」とその想いと抱負を語りました。



私たちの活動の特徴は単に田植えと稲刈りだけを体験して終わりではなく、地域との関わりや文化的行事も含めた米づくりの1年間を様々な側面から体験出来る事です。休耕田をなくし田園風景の保全といった地域ファーストでの活動が環境保全につながっているということを強く実感します。この受賞を機に、地域や環境豊かな田んぼのためにますます貢献していこうと思います。



人生の第二ステージは里山の田んぼと豊かな自然美の中

ウィリアムス和栄

今から20年ほど前、都会生活に終止符を打ち、会社には早期退職を願い、その後の生活を模索する中で、偶々出会った房総半島の中程に位置する川のほとりに建つログハウスで、私達の新しい生活は始まりました。

窓から見下ろす夷隅川の景色が印象的でした。お花づくり、ガーデニングには最適と趣味を極めるつもりでスタートした生活ですが、四苦八苦の中、多くの動物たちとの出会いが私達のその後の生き方を方向付けていきました。

住み始めて一年も経たない内に、迷い込んだ猫を皮切りに、犬、子猫や傷病野生動物を保護し、多くの命を預かるという経験を通し、「いのち」に触れた感動は言葉にはなりません。又、元々のペットの鳥たちも、子育てに励み、大家族へと成長してきました。

多種の生き物たちが、一つ屋根の下で、争いごともなく、それぞれの存在を認め合い空間を共有しての生活です。最も多数

の時、台風の影響で避難勧告を指示された事がありますが、大型インコ、犬、猫、合計26の命を友人の助けを得て、守れた事は特筆すべき経験でした。

現在は、里山の集落内に在住しています。周辺の田んぼの畔や山への道沿いには、季節の山野草の花が見事に咲き誇り、目を奪われる事、度々でした。実際にお米作りを始め、作業をしながら見える景色は至近距離、この景色は又、格別で、その印象は新鮮に映りました。田んぼの中には、オタマジャクシや水生昆虫が、外側は、私の大好きな野草の宝庫でした。今年もお米作りを楽しく続けるつもりですが、田んぼのみならず、周辺の環境を健全に維持し、風景を美しく保つべく活動を是非続けていきたいと思います。



2年半前に大怪我を負い保護され、当初の看取り介護から半年間で劇的に回復し、今は、ほぼ健康な室内犬同様、サークル内のくらしに。自然に帰る事が出来るのか、模索中。名前は「たんぴー」





水田部会からのお知らせ



2018 年度の田んぼ 10 年の活動へのご協力、ありがとうございました。4 月からは田んぼ 10 年プロジェクト 2019 年度の活動が始まります。2020 年までの 2 年間は、これまでの約 8 年間の活動を振り返り、2020 年以降の活動方針を出していく重要な時期となります。

田んぼ 10 年に登録して田んぼの生物多様性の向上のために日本各地で活動しておられる皆様、ぜひこれからの取り組みにご参加、ご協力下さい。

【2019 年度 田んぼ 10 年プロジェクトの主な活動】

- 第 10 回地域交流会：中池見湿地のある福井県敦賀市で 11 月 3 日（日）開催予定
- 第 5 回全国集会：2019 年末に東京での開催を調整中。2020 年以降の活動について集中的に議論
- 第 4 回にじゅうまるパートナーズ会合（にじゅうまる COP4）：2020 年 1 月名古屋の国際会議場で開催予定
- アンケート実施：2013 年からの活動をまとめるためのアンケート実施を計画。時期などは未定。田んぼ 10 年に登録されている皆様、ご協力をよろしくお願いいたします。



その他の取り組みを含め、企画ができた段階で順次皆様にお知らせいたしますの。ぜひご参加ください。

mini COLUMN

フィリピン・イフガオ州の棚田訪問

呉地正行

2018 年 11 月にバナウエの棚田（フィリピン・イフガオ州）に行ってきました。ここにはユネスコの世界遺産と、FAO の世界農業遺産（GIAHS）に指定されている棚田がいたるところにあります。その一つで、生き物調査を行ったバタッド棚田は、すり鉢状の山に囲まれ、徒歩でしかたどりつけない秘境です。山の斜面が標高 500-1,300m にわたり全て石積の棚田となり、家畜も入れない険しい地形のため、全ての農作業が人力だけで行われていました。

（写真：バタッド棚田）



情報をお寄せください

田んぼ 10 年事務局では、皆様からの情報をお待ちしています。

是非、皆様の活動の様子を、メーリングリストや田んぼだよりで紹介ください。寄稿歓迎
また、「このような内容の記事を掲載して欲しい」などというご希望もお寄せ下さい。

■田んぼ 10 年プロジェクト新規登録者 なし （2018 年 11 月～2019 年 3 月）

World
Wetlands Day
2 February 2019



Wetlands and
climate change

第 4 回田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト全国集会は、世界湿地の日（2 月 2 日）の登録行事として実施しました。



MS&AD
MS&AD インシュアランスグループ



コープデリ連合会

食卓を笑顔に、地域を豊かに。

田んぼ 10 年プロジェクトは、企業からの支援をいただいています。

連絡先/事務局

ラムサール・ネットワーク日本

info@ramnet-j.org

FAX: 03-3834-6566



にじゅうまる
プロジェクト

田んぼ 10 年プロジェクトは、にじゅうまるプロジェクトに参加し、
国連生物多様性の 10 年日本委員会の連携推進事業に認定されています。



このニュースレターは、平成 30 年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しました。